

日本の古代文化を学ぶ

—文化の国際化と国風化—

公立中学校教諭

はじめに

学習指導要領の今次改訂では、歴史的分野において学習内容の構造化と焦点化が求められている。歴史的分野では、すべての中項目が「○○、○○などを通して、AがBであったことを理解させる」という表現になっている。

本単元に関係する部分、新学習指導要領「(2) 古代までの日本 中項目(ウ)」を見ると「仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる」となっていて、その(内容の取扱い)では「文化を担った人々などに着目して取り扱うようにすること」とされている。

以上のことを踏まえて、授業構想を練ることが求められる。

2 単元の構想とねらい

ここでは、単元化の事例として新しい教科書平成24年度用『社会科 中学生の歴史』(以下、新教科書)を使った「古代文化」の授業を構想し、それが新学習指導要領による構造化や焦点化とどう関わるかを示すことにする。

単元を構想する際に、まず、仏教がいつ頃伝来し、平安末期にはどのような変化をした

のか、その間、どのように広がったのか、また、節目でどのような人物が関わったのかなどについて、あらかじめ授業者である教師が整理しておくことが大切である。次に、生徒に教科書や資料集に親んでもらい、歴史についての興味・関心を高め、資料(史料)の活用能力を高められるようにすることもねらいとしたい。古代は、中学校での歴史学習の導入であり、新学習指導要領の増加した内容をていねいな学習で習得させていくためにも、スタートは肝心である。子どもたちが、教科書を何度もひっくり返して「ああでもない、こうでもない」とつぶやきながら、疑問や気づきを語り合っただけで学習を進める姿をイメージして授業づくりをしたい。

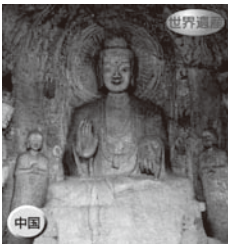
3 単元の流れ

【1時間目】

(1) 仏教についての復習(新教科書p.14~15)と日本への伝来(新教科書p.28~29)についての確認をする(資料集『中学校スタンダード歴史資料』p.32「仏教の広まり」なども活用)。

このとき、仏教は、当時、海外から輸入されたばかりの国際色豊かな宗教であり文化であった点を押さえて理解させることが大切である。

(2) 新教科書p.28~41に掲載された写真のうち、仏教にかかわるものをすべてあげさせる。



新教科書 p.28②



新教科書 p.28③ (現行本p.33)



新教科書 p.28①



新教科書p.36①



新教科書p.40① (現行本p.43)

ノートでもよいし、わら半紙を適当な大きさに切った専用紙を用意してもよいし、ワークシートを用意してもよい。とにかく、教科書中の写真を全部チェックさせ、すべて書き出させたい。「何が仏教？」なのかわからない子どもも多いと思われるので、周囲の子どまと相談しながら作業させる。グループで作業させてもかまわないであろう。書き出したことを黒板に生徒たちに書かせるのも楽しい学習方法である。こうした場面では、生徒が間違いをすることも多く、教師がそれを否定せずに取り上げて、なぜ間違えたのかを教室全体に還していき、「良い間違いをしてく

れてありがとう」という評価をあたえることも大事である。また、たとえば「五弦琵琶」(新教科書p.37④)を仏教に関連するものとするか否かなど、微妙なものあるであろう。そのあたりはあらかじめ教師が正解を準備しておく必要がある。

(3) 新教科書p.28~41に取り上げられた人物のうち、仏教にかかわる人物のカードを作成し、大まかに古い時代順に並べ替えさせる。

トランプ大の大きさに切った紙片数枚を用意し生徒一人ひとりに配布する。新教科書p.28~41に登場する仏教にかかわりの深い人物の名前を書かせ、どのように仏教と関わったのかを簡単にメモさせる。

次にカードを時代順に並べ替えて台紙に貼りつけさせる(ノートでもよいし、ワークシートでもよい)。ここでも、年代がはっきりとわからないものについては、資料集を活用したり、教師が事前に調べたりして(生没年など)生徒に伝えてもよいと思う。



新教科書巻頭折込「歴史人物カードを使ってみよう」

【2時間目】

(4) 新教科書p.28~41に掲載された仏教にかかわるものの写真を拡大し、黒板に貼り、時代順に並べ替える。



新教科書p.40③

前時の復習として、(2)であ

げた写真を教師が拡大しておき、黒板に貼る。子どもと意見交換をしながら、拡大した写真を並べ替えていく。このとき、子どもたちと会話をしながら、気づいたことや疑問点などを発言させると、より豊かな学習が展開できる。前時に自分でノート等へ書き出したもの



資料集p.40

も、時代順に整理しなおす。さらに、大仏の開眼供養が国際的なイベントであった様子（新教科書p.36②のキャプションを参照）やシルクロードと正倉院の関連、鑑真の渡来などについても補足説明をしながら授業を進めることが大切である。資料集『中学校スタンダード歴史資料』などの資料を活用して、シルクロードや正倉院に関連して「国際化」について深めることも可能である。あるいは、鑑真の渡来についてや空海の渡航と帰国などについてもふれて、外国と日本のつながりについて考えさせることもよい発展学習となる。

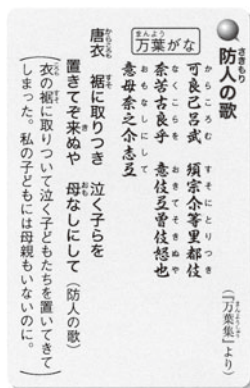
(5) 新教科書p.41から かな文字で書かれた文学作品と作者名をあげさせる。



新教科書p.41⑦

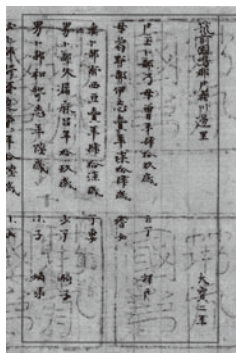
ここでは、3作品しか掲載されていないので、すぐに見つけ出すことができると思われる。国語の「便覧」なども活用すると、国語の古典学習とも関連させることができ、より生徒の学習が深まると思われる。また、時間に余裕があれば、新教科書p.41のひらがなとカタカナを模写させたり、さらに教師が教材を用意して、生徒に自分の名前の漢字をかなで書かせたりするなど、作業学習を取り入れても、より生徒が習得しやすくなると思われる。

(6) かな文字が生まれる以前の文学作品をあげさせる。



新教科書p.33

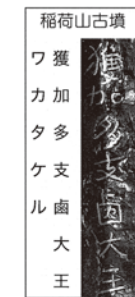
かな文字が生まれる以前にも文学が成り立っていたことに気づかせ、さらに、その頃にはどのような文字で日本語を表現していたのか気づかせたい。そのためには、教科書に掲載



新教科書p.34①



新教科書p.35⑤



新教科書p.25⑦
(現行本p.29)

された、かな文字以前の文字をうまく活用することが必要である。

【3時間目】

(7) 国際化の時期と国風化の時期を、政治の流れに沿って分けさせる。

新教科書巻末折込の年表を用いて、大きな政治的なできごとが、文化の国際化の時期におきたできごとなのか、国風化の時期のことなのか分類させる。そして、古代の日本文化について、次のような指示で、文章にまとめさせる。

指示：古代の日本の文化について、次のキーワード（仏教、国際化、国風化）を必ず用いて、400字程度の文章にまとめなさい。その際、それらがいつ頃のできごとなのか、時代名や年号、世紀（たとえば奈良時代の終わり頃とか、8世紀前半とか）などを用いて示しなさい。さらに、重要な人物2～3名を文章中に書き入れなさい。

(8) 発展：次のような問いを立て、予想を考えさせる。

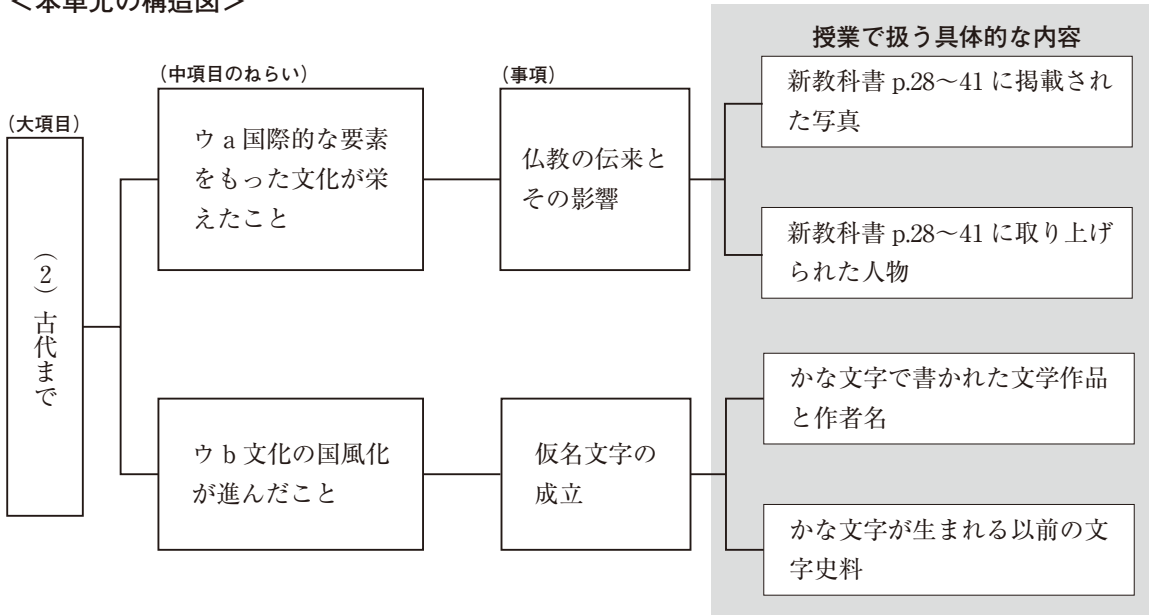
問いの例：①蘇我氏は、なぜ仏教導入に積極的だったのか？ ②鑑真はなぜ何度も難破したのに日本にやってきたのか？

正解は求められない発問なので、教師が子どもそれぞれの文章にコメントを書くことが評価となるであろう。

4 おわりに

以上の授業を、学習指導要領解説 総説3 社会科改訂の要点（2）各分野の改訂の要点（歴史的分野）に示されたような構造化図に示してみると次のようになる。指導内容を構造化することは、授業、とくに単元計画を練るうえで大切である。学習指導要領解説に示された構造化図を、授業レベルまで拡大していき、生徒の前に立ちたいものである。

<本単元の構造化図>



まとめ：できごとが文化の国際化の時期におきたことなのか、国風化の時期のことなのか